

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

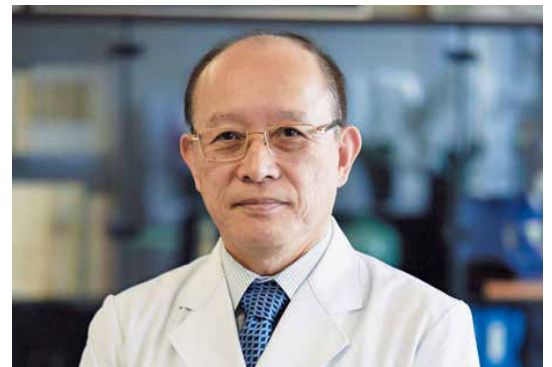
No. 91

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

福岡大学と駆け抜けた 半世紀

福岡大学名誉教授 岩崎 昭憲



1982年に福岡大学医学部を卒業して43年間大学に在籍し本年3月31日付けで退職をいたしました。学生生活6年を加えると49年、半世紀になります。

在職中は公私にわたり皆様のご厚情に支えられ大過なく大学での臨床・研究・教育の任を担うことができましたことを心から感謝申し上げます。

4月1日からは大学の近くにある急性期病院で、再び病院長として新たな生活を開始しました。振り返りますと、福岡大学では充実した楽しい生活をフルに過ごすことができました。私は当時の第二外科に入局し犬塚教授、白日教授に師事し、一般外科修練後には、呼吸器外科を専門としました。2008年4月より当教室の3代目教授に就任してからは、ひたすら教室の繁栄にも努めてきました。幸いだったのは、思いもよらない多くの経験をさせていただいたことです。

臨床では、内視鏡外科手術が登場し、外科の歴史でも半世紀に一度と言われるほどの大変革期を、直に肌で感じることができました。それは黎明期より取り組んだ「内視鏡を用いた呼吸器外科への低侵襲手術」が実を結んだことです。さらに福岡大学のRobot手術体制をつくり、私自身も肺癌Robot手術を執刀できたことは忘れられません。

現在、福岡大学の消化器外科や呼吸器外科が日本屈指のRobot手術施設になっているのを見て、頼もしく思うとともに声援を送っています。

研究では、1998年6月より大学の1号研究員として「人工臓器研究」の目的で1年間の米国留学の機会をいただきましたし、その他東京のがんセンターなどの国内留学も経験させて

いただきました。ClevelandからPittsburgそしてTexas Medical Centerに移り、多くの先生方に出会い、それが今でも大切な財産となっています。日本では味わえない開放的な環境で多くの楽しい思い出を作ることができました。

教育では、副担任として学生と接したり、医学部の学生部長を2年間務めたり、野球部の顧問に一時期就任はしていたものの、講座所属でありながら学生教育には力不足であったことは否めません。

その他、2019年12月から4年間にわたり福岡大学病院長に就任し、多くの経験をいたしました。COVID-19による世界的パンデミックが就任と同時期に起こり、約3年は厳しい病院運営でした。言葉に尽くせない重圧もありましたが、皆様のご協力により他の大学病院や市中病院にくらべ良好な運営ができたと思います。また何と言っても、長年の懸案であった50年ぶりの新本館建設の実施設計と、着工から竣工までを担当させていただきました。現在、大学の近くから新建物を目にした折は、完成に至るまでの多くの出来事が走馬灯のようによみがえります。また病院50年誌編纂なども忘れられない事業でした。

おわりに、私は医学の歴史、とりわけ外科の歴史書に興味を持ち、時折過去の時代に思いを馳せる事があります。つくづく現代の医療を受けられる患者さんの幸運を感じているところですが、医療者にとっては困難な時代かもしれません。今後は、もう少し新しい医療の進歩を見ながら、歴史書も楽しみたいと思っています。

長きにわたり、お世話になり有り難うございました。皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

福岡大学医学部に感謝です

福岡大学名誉教授 松永 彰

1980年に福岡大学医学部を卒業し、長い時間を福岡大学医学部、福岡大学病院で過ごすことができ、また、色々な経験をさせて頂き感謝しています。

卒業当時は今の研修制度とは異なり、直接入局で荒川規矩男教授の第二内科に入局しました。研修医の2年間で内科のほぼ全ての分野を福岡大学病院内でまわることができ、沢山の先生方にお世話になりました。研修終了後直ぐに、大学院生として松岡雄治教授の生化学教室にお世話になりました。生化学教室では当時助教授だった黒木政秀先生(後に教授、医学部長)のご指導を受け大変鍛えられました。

その後、留学の話を頂き、ダラスにあるサウスウエスタン・メディカルセンターの生化学教室(Cottam先生)に2年半留学しました。

帰国後半年ほどで、助手に採用され、臨床、研究、教育にたずさわることになりました。研究は佐々木淳先生のグループで、脂質代謝異常、特にリポ蛋白研究を行いました。当時は、高脂血症治療薬のスタチンが出たばかりで、治験や研究で大変忙しくしていました。その頃からアポA-IやアポEの遺伝子変異の研究を始めました。また、循環器・代謝病棟の病棟医長や第二内科の医局長も経験しました。その後、内科の再編成があり、

2000年に朔啓二郎先生が、心臓・血管内科の主任教授になられ、2002年から私は準教授(助教授)に任命されました。リポ蛋白糸球体症を発見された斉藤喬雄先生が、福岡大学腎臓・膠原病内科の主任教授として来られ、アポE遺伝子変異が、リポ蛋白糸球体症の原因であることから、共同研究を頂きました。共同研究では沢山のアポE遺伝子変異を検出することができ、アポ蛋白Eの研究が私のライフワークになりました。2008年からは臨床検査医学の主任教授となり、教室や福岡大学病院臨床検査の運営を行いました。全国の臨床検査の先生方とも親しくなり、良くして頂きました。また、国際センター委員として医学生を連れて大邱にある啓明大学にも何度も伺い、楽しい時間を過ごしました。最後の4年間は大学院の研究科長もさせて頂き、大変勉強になりました。1年早く定年退職し、2025年4からは福岡女学院看護大学で学長として働いています。大変お世話になりました。ありがとうございました。



福岡大学でのかけがえのない経験に感謝を込めて

福岡大学名誉教授 内尾 英一

2005年に着任して以来、講座の垣根を越えた協力、助言そして理解をたくさんの基礎、臨床の各教室の多くの先生方から賜ることができて、実り多い研究者生活を過ごすことができたことに心から感謝申し上げます。

大学院学務委員として他学部の先生方とも親しくさせて頂くことができ、西日本の私学の雄たる福岡大学の懐の大きさを改めて感じました。そこに至るまで総合大学という恵まれたアカデミアが確立されてきた90年を超える学問への積み重ねが福岡大学には確かにあり、医学部の創立以来50年あまりの歴史の一員として過ごせたことに誇りを感じています。

臨床分野では眼科学主任教授としての私個人だけではなく、教室の門を叩いてくれた医局員の皆様が眼科の幅広い専門分野に対して、私をはじめそれぞれの専門外来の中で、豊富な症例を診療するにとどまらず、診断、治療成績に関する臨床研究を自発的に行い、数多くの学会発表、論文執筆として業

績を蓄積してきたことにも、心から感謝いたします。この20年間で眼科学における福岡大学の地位は各専門外来を担ってくれた医局員の研鑽によってそのプレゼンスが大きく高まったことを私自身嬉しく思っています。

研究分野では私の教授在任期間中に18名が学位を取得でき、基礎研究や質の高い臨床研究を欧米の一流ジャーナルという場で形にしてくれた医局員の皆様の学問に対する真摯な姿勢には心から敬服しています。このような優秀な仲間たちと同僚として20年間、和気藹々とそしてチームワークで仕事をしてこれたことは本当に幸運だったと感謝いたします。

福岡大学医学部の恵まれた臨床、研究の環境で、眼科学教室員のみならず医学部の先生方がこれからも世界に向けたご活躍をされて発展していくことを確信して、私の感謝の言葉といたしたいと思います。これまでありがとうございました。



名誉教授授与後、驚きの日常

福岡大学名誉教授 浦田 秀則

わたくしは1974年入学から2025年3月筑紫病院退職まで足掛け51年間福岡大学にお世話になりました。途中米国へ6年4ヶ月と独国へ3年2ヶ月留学させていただきましたので、実際にお世話になったのは41年半となりますが、名誉教授もいただく事となり深謝は言葉に尽くせません。新設だった福岡大学医学部の良かった点として、我々の育成時期(大学生・研修医・大学院時代)には多くの若く元気で優秀な先生方に直接公私に渡り指導を受けられ、各施設(教室・病棟・総研・RIセンター・アニマルセンター等)も開設後まもなくですべてが新しく、特に研究施設では利用者が比較的少なく、十分なスペースと指導者に恵まれ自由に臨床・研究の実践教育を受けることが出来ました。今後の新校舎でもこのような教育環境維持ができると世界に通用する新進気鋭の医師及びコメディカルを福岡大学から輩出できるのではと考えます。

筑紫病院退職後4月から久留米大学医学部関連病院で甘木にあります朝倉医師会病院 総合診療科(医師一人)の現場(病棟&外来)で仕事をしています。福岡大学医学部同級生で朝倉医師会長である田邊庸一君に“大学辞めたら暇やろ、来んね”と招聘されたからです。この病院は地域医療支援病院で周辺の開業医の先生方からの依頼症例を主に扱う病院で、しかも総合診療科ですからどの専門科の症例か判別が難しい症例を中心に受け入れていますので、筑紫病院で診てきた純粋な循環器症例は少なく、戸惑っています。病棟で主治医になるのは約30年ぶり、しかも紙カルテではなく電子カルテという厄介者と格闘している毎日です。何回クリックをしても自分が間違っているのかカルテが上手く反応してくれず、目的の仕事画面を見つけきれなかったり、仕事が最後まで完遂していないことも多々あり、“何だこりゃ!!” 状態です。何度も電子カルテを開き直して修正が求められます。

2005年筑紫病院へ電子カルテを導入した際、副院長として担当させていただきましたので、電子カルテの内容は理解してはいましたが、自分が電子カルテを使用するのは外来診療のみで、しかも秘書さんやメディカルクラークさんのヘルプ付きでしたし、病棟での各種指示は全く触ったこともない私が自分ですべてをこなすのは大変です。入退院指示・同意書・注射処方・入退院処方・処置指示簿・入退院説明書・リハビリ指示・摂食指導指示・診療情報提供書・退院サマリーなどと毎日約12～15

名の症例を抱えながら格闘している毎日です。久しぶりの現場仕事をこなしてみていることは、筑紫病院の現場で仕事をしてくれていた若い先生方がいかに頑張ってくれていたかしみじみと分かりました。有難いことです。

入院症例のほとんどは何らかの感染症が多いのですが、何しろ高齢化率が特に高い地区です。でありとあらゆる他疾患を合併しています。心不全・脳卒中後遺症・癌疾患・電解質異常・低蛋白症・認知症・摂食不良・骨関節疾患・骨折・下肢静脈血栓症等です。このような併発症管理も含めた内服・注射薬管理は複雑で配合禁忌や用量調節などの調整もコメディカルさん頼りですが大仕事です。本邦での高齢化医療モデルのような地域・症例群です。入職から4ヶ月程度経過し一応一通りの入退院業務はこなせるようになってはいますが、古希の自分がいつ迄耐えられるのだろうかと思案しています。

年齢は問いませんが、上述したような総合診療科に興味をお持ちの先生がおられれば是非共に頑張ってくださいと思います。連絡先は下記に記しております。ネットでも募集しています。今はテレビの番組でも取り上げられている診療科です。し期待してお待ちします。この病院でも、患者さんやそのご家族の話に耳をゆっくり傾けることが診断に繋がることはよく経験します。大事なことです。

この現場医療で必要とされる姿勢は臨床に限らず、自らが経験してきた研究面でも共通ではなかったかと思っています。現実の事実もしくは結果をまっすぐに受け取り、結論を決めつけずに本当は何か起こっているかを探索することではないでしょうか?そういう意味でも第5の人生に当たる今の現場医療を上手く乗り越えていければと感じております。

皆さん!お時間ありましたら、当朝倉医師会病院での私の働きぶりを見に来ていただければと思います。福岡大学名誉教授が現場で四苦八苦しております。

連絡先: 朝倉医師会病院 総合診療科

〒838-0069 福岡県朝倉市来春422-1

Mail: urata.hd@asakura-med.or.jp



医師国家試験 結果報告

第119回医師国家試験(令和6年2月8～9日実施)に112人が受験し、101人(新卒87人・既卒14人)が合格しました。合格率は90.2%、新卒のみの合格率は94.6%でした。

看護師・保健師 国家試験結果報告

第114回看護師国家試験(令和7年2月16日実施)に新卒者100人が受験し、全員が合格しました。合格率100%。また、18人(新卒)が第111回保健師国家試験(令和7年2月14日実施)を受験し、18人全員合格しています。合格率100%。

新風

令和 7 年 4 月 1 日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。

new phase



解剖学
教授

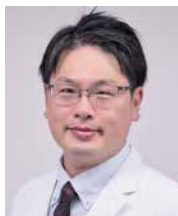
貴田 浩志

令和7年4月1日付で、医学部解剖学講座教授を拝命いたしました。私は平成18年に久留米大学医学部を卒業し、初期研修を経て同大の呼吸器・神経・膠原病内科に入局いたしました。神経内科を専攻し、幅広い疾患の症例を経験させていただきました。神経内科専門医を取得後、平成25年に大学院に進学し、同大の高次脳疾患研究所にてRett症候群の病態解明研究に取り組みました。また、平成29年から1年間は神奈川県のカンガスカイフロントにあるナノ医療イノベーションセンターに国内留学させていただき、ナノミセル型薬物送達システム(DDS)を用いたmRNAの医薬応用研究に携わる機会を頂きました。平成30年に福岡大学医学部解剖学講座に採用いただき、現在に至っております。

解剖学は、学生にとって初めて「生身の人体に触れる」機会であり、医師としての第一歩を踏み出す重要な科目です。実習初日には、手袋の装着やメス刃の取り付けといった基本から丁寧に指導しながら、学生一人ひとりが解剖学の奥深さと、医学を志す覚悟を体感できるよう努めております。

医学部生への解剖学講義、実習指導の傍ら、中枢神経組織への遺伝子送達キャリアの開発研究を継続しています。人体の構造理解を基盤としつつ、分子レベルの新しいアプローチを探ることで、解剖学の可能性を広げる研究と考えております。

今後は主任教授として、解剖学講座の伝統を継承しつつ、新たな教育・研究の展開を図り、福岡大学のさらなる発展に貢献してまいりたいと考えております。何卒、先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



眼科学
教授

平山 雅敏

このたび令和7年4月1日付で福岡大学医学部眼科学講座教授を拝命いたしました平山雅敏と申します。私は北里大学医学部を卒業後、慶應義塾大学にて眼科の臨床と研究に従事し、とくに角膜および涙腺の再生医療を専門としてまいりました。角膜移植などの外科的治療やiPS細胞由来角膜内皮細胞移植の臨床応用、さらに涙腺発生学を基盤とした新しいドライアイ治療戦略など、臨床と基礎を結びつけた研究を進めております。福岡大学眼科では、

地域医療への貢献を第一に据えつつ、次世代を担う若手医師・大学院生の育成にも力を注ぎたいと考えております。臨床の質を高め、医療に関わるすべての人のWell-beingを追求することを理念に、学問的發展と地域社会への還元を両立させる教室運営を目指してまいります。趣味は家族と過ごす時間で、休日には子どもたちと一緒に穏やかなひとときを楽しんでおります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



総合周産期母子医療センター
教授

井上 貴仁

2025年4月1日に福岡大学病院総合周産期母子医療センター教授を拝命いたしました井上貴仁と申します。1992年に福岡大学医学部を卒業後、福岡大学小児科学教室に入局し、諸先輩方のご指導のもと小児神経学を学び、平成7年から4年間九州大学大学院で遺伝子治療の基礎研究で学位を取得しました。以降関連病院での診療を経て、2025年から福岡大学病院総合周産期母子医療センター教授を担当しております。

私が着任した福岡大学病院総合周産期母子医療センターは1998年、国および県より、周産期医療の中核施設である総合周産期母子医療センターとして、福岡県で初めての指定を受け、福岡県の周産期医療対策事業の中心的医療施設として、20年以上の長きにわたり、福岡県の周産期医療を支えてきました。

当センターは、周産期医療を1つの診療単位と考え母体・胎児・新生児に対する高度な医療を提供しています。

私はこれまで、小児神経専門医、てんかん専門医、臨床遺伝専門医として幅広く診療してきました。これまでの経験を生かし、地域の産科の先生方と密な連携を計り今後の周産期医療の発展に尽力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション部
教授

鎌田 聡

令和7年4月より福岡大学病院リハビリテーション部の教授を拝命いたしました。私は平成15年旭川医科大学卒業後、同年福岡大学整形外科へ入局させていただきました。内藤 正俊名誉教授のご指導のもと整形外科の研鑽を積ませていただきました。平成23年学位取得、リハビリテーション部配属となりました。塩田 悦仁名誉教授のご指導のもと、整形外科疾患だけでなく、今まで馴染みのなかった内部疾患・脳神経系疾患のリハビリテーションについて研鑽してまいりました。リハビリテーション科専門医・指導医を取得し現在に至っております。

リハビリテーションは、患者の治療だけでなく日常生活にも関わっていく分野であり、高齢化社会が進行していく中で、その役割が今まで以上に重要になってきています。患者の病状だけでなく、家屋の状況や同居家族の有無といった患者背景を考慮しながら、リハビリテーション治療に取り組んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



救急治療センター
教授

喜多村 泰輔

本年度より救急治療センターの病院教授を拝命いたしました。私は1993年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院救命救急医学講座に入局いたしました。臨床研修修了後は整形外科および関連病院で4年間研修し、その後は福岡大学病院救命救急センターにて救急整形外傷診療を中心に従事いたしました。福岡東医療センターや高知医療センターでの勤務では、多診療科や多職種との連携に加え、行政・消防機関との協働の重要性を学びました。2016年に福岡大学病院へ復帰して以降は、ドクターカー（FMRC）の立ち上げ、院内急変患者に対応するRapid Response Systemの導入、脳死下臓器提供体制の整備など、現場に即したシステム構築にも関わって参りました。現在、救急治療センターは専任医師3名、救急救命士1名、看護師21名で診療しており、休日夜間は院内各診療科の先生方にご協力いただいております。救急診療は全ての診療科に必要な不可欠であり、特に研修医教育に適した環境です。今後も教育に力を注ぎつつ、各診療科やコ・メディカルと多職種連携し、診療と教育の発展に努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



卒後臨床研修センター
教授

八尋 英二

このたび福岡大学病院卒後臨床研修センターの病院教授を拝命いたしました。身に余る重責に身の引き締まる思いであり、これまでご指導賜りました諸先輩方、そして共に歩んだ同僚、同門先生皆様に心から感謝申し上げます。現在の医師臨床研修制度は平成16年（2004年）から始まり、約20年が経過しています。卒後臨床研修は、医師としての第一歩を確実に踏み出す極めて重要な時期です。医療の基盤となる知識と技術を修得するのみならず、患者さんと真摯に向き合い、社会から信頼される医師としての姿勢（態度）を培うことが求められます。福岡大学病院卒後臨床研修センターでは、その成長を支える場として、研修プログラムの改善や教育体制の充実、研修環境の整備にこれまで努めてまいりました。私は、これまで構築していただいた実績や功績をさらに発展させ、次世代を担う若い医師が安心して学び、日々の日常臨床から探究心を涵養し、他者へ教育できるような医師へと成長し、そして挑戦できる環境を築けるように努力して参ります。福岡大学の病院に関わる診療科や部署におかれましては、今後とも皆様の温かいご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



筑紫病院 呼吸器・乳腺外科
教授

早稲田 龍一

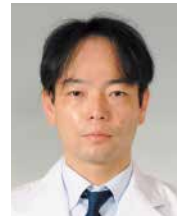
この度、2025年4月1日付けで福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 教授・診療部長を拝命いたしました。

私は、2001年に金沢大学医学部を卒業、同大学の心肺・総合外科に入局し、呼吸器外科を中心に幅広い外科診療の経験を積みしました。2014-15年にはウィーン医科大学に臨床留学し、日本国内では得難い経験をして参りました。2016年より福岡大学に新たな活躍の場を頂き、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の岩崎昭徳教授、佐藤寿彦教授、臓器移植医療センターの白石武史教授のご指導のもと診療・研究・教育に従事し、今年でちょうど10年目となります。

専門領域は呼吸器外科全般で、診療の中心である肺がんの手術では、ロボット手術や単孔式胸腔鏡手術といった最新の低侵襲手術を得意としております。加えて、福岡大学では縦隔疾患、胸膜中皮腫に対する外科療法、さらに肺移植や気道手術まで広く経験をさせて頂きました。山下眞一先代教授が創られた筑紫地域における肺がん・乳がん診療をさらに充実させ、患者さん一人一人に最新かつ最適な治療をお届けできるよう精進してまいります。

近年、外科医を志す若手医師が減少するなかで、地域の大学病院が果たす役割は重要になっております。地域に根ざした診療とともに、呼吸器・乳腺外科の魅力を若い世代に伝える教育・研究にも力を注いで参ります。ライフワークである肺移植についても、福岡大学病院臓器移植医療センターの一員として継続して取り組んで参ります。

ご関係の皆様方には、これまでのご厚情に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



消化器内科学
准教授

横山 圭二

令和7年4月1日付で、平井郁仁主任教授のご推挙により、福岡大学医学部 消化器内科 准教授を拝命いたしました。私は平成11年に福岡大学を卒業し、初期研修を経て、第3内科（現 消化器内科）へ入局いたしました。その後、福岡赤十字病院、福岡市医師会成人病センター（現 福岡大学西新病院）、川浪病院（現 福西会病院）などの地域中核病院にて臨床の基盤を築き、大学復帰後は、肝臓に対するラジオ波焼灼術に関する研究で学位を取得いたしました。現在は、消化管静脈瘤に対する内視鏡治療、門脈圧亢進症、肝硬変合併症、肝臓治療を主軸とした臨床・研究に従事しております。若手時代は臨床に全力を注いでいましたが、大学での経験を通じて、基礎研究やデータ解析の重要性、そして次世代を担う医師の育成の責任を強く意識するようになりました。今後は「臨床・研究・教育」の三本柱を大切にしながら、肝疾患診療の発展と人材育成に一層尽力してまいります。これまでご支援くださった皆様に心より深謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



消化器内科
准教授

芦塚 伸也

この度、平井郁仁主任教授のご推挙を賜り、2025年4月1日付けで福岡大学病院消化器内科准教授を拝命いたしました。

本学着任後3年が経過し、日々の診療・研究・教育活動にも徐々に慣れ、充実した日々を過ごしております。診療面においては、炎症性腸疾患先進治療センターの業務を中心に従事しております。診断や治療難渋する症例も数多く、チーム医療の重要性を改めて実感しております。研究面では、教室スタッフと協力し臨床研究を推進するとともに、大学院生や研究員とともに炎症性腸疾患に関する基礎研究にも取り組んでおります。特に、宮崎大学時代からのライフワークである、生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」を用いたトランスレーショナルリサーチを継続し、炎症性腸疾患における新規治療法およびバイオマーカーの開発を目指しております。患者さんに還元できる成果を挙げられるよう精進してまいります。また、学生・研修医教育にも力を注ぎ、次世代を担う若手医師の育成に貢献できるよう日々努力しております。

今後とも診療・研究・教育の各分野で誠心誠意取り組み、福岡大学の発展に尽力してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



内視鏡部
准教授

石田 祐介

令和7年4月1日付で、平井郁仁教授のご推挙により、福岡大学病院内視鏡部 准教授を拝命いたしました。私は平成12年(2000年)に長崎大学を卒業し、久留米大学消化器内科にて消化器内科医としての研鑽を積んでまいりました。特に胆道・膵臓領域を専門としてきたことから、平井教授にお声がけいただき、令和2年4月より福岡大学医学部 消化器内科学講座へ入局いたしました。その後、胆膵研究室を立ち上げ、従来は消化器外科の先生方が主に担当されていた胆膵疾患について、消化器内科が診療の窓口となれるよう、画像診断・内視鏡診療・化学療法などの指導を行ってまいりました。

胆膵領域は近年、内視鏡診療が劇的に進歩しており、診断のみならず低侵襲治療においても欠かせない存在となっております。結石などの良性病変による救急疾患から悪性腫瘍まで、その対象は多岐にわたりますが、内視鏡を中心とした内科診療の魅力を若い先生方に伝えていければと考えております。もちろん、消化器外科・放射線科・病理の先生方のご協力により診療が成り立っていることを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、胆膵領域は難治癌として取り上げられることも多く、臨床・基礎問わず関係各科との連携の強みを活かし、福岡大学ならではの研究を進めてまいります。未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携センター
准教授

志賀 悠平

このたび、2025年4月1日付で福岡大学病院地域医療連携センター准教授を拝命いたしました。2003年に福岡大学医学部を卒業後、朔啓二郎教授のもと、第二内科(現在の心臓・血管内科学講座)に入局いたしました。その後、学位を取得し、三浦伸一郎教授のもとで循環器内科講師として勤務してまいりました。2022年からは臨床の場を地域に移し、訪問診療メディカルハートクリニック福岡の院長として、在宅療養の患者さまやご家族に寄り添い、日々の暮らしに根ざした医療を実践してまいりました。この経験を経て、2024年に福岡大学病院循環器内科に復帰し、地域医療連携センター副センター長を兼務、そしてこのたび准教授を拝命することとなりました。

地域医療連携センターは、地域の先生方や医療機関と力を合わせ、患者さまやご家族が安心して医療を受けられるよう、「地域で完結できる医療」を目指しています。700を超える施設との連携や地域訪問・学術講演会を通じて顔の見える関係を築き、前方支援・後方支援・医療相談を多職種で支えています。また、DXやSNSを活用し、地域に開かれた温かい医療連携にも力を入れています。

これまでの経験を大切に、患者さまと地域に寄り添いながら貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



脳卒中センター
センター長

緒方 利安

この度、2025年4月1日付で福岡大学病院脳卒中センター長を拝命いたしました、脳神経内科の緒方利安です。

1997年に九州大学を卒業後、国立循環器病センターでのレジデント経験などを経て、2011年より11年間、福岡大学病院で脳卒中の臨床・研究に携わってまいりました。その後、福岡赤十字病院での勤務を経て、再び福岡大学病院で皆さまと共に働く機会をいただき、大変光栄に感じております。

脳卒中は有病者数が多く、日本人の4人に1人が生涯に一度発症すると言われております。また、発症すると80%の方に後遺症が残るとの報告もあり、健康寿命の観点からもその対策は喫緊の課題です。国も2018年には「脳卒中・循環器病対策基本法」を制定し、診療体制の整備を進めています。

現在、脳卒中診療を行なう病院はPSC (Primary Stroke Center) とPSCコアに分類され、PSCコアでは24時間365日体制での急性期診療に加え、機械的血栓回収療法や脳卒中相談窓口の設置が義務付けられています。福岡大学病院は現在PSCですが、今後はPSCコアの認定を目指し、地域の中核施設として一層貢献できるよう体制を整備していきます。

脳卒中診療には、救急体制の整備や地域連携に加え、t-PA療法などの急性期治療、抗血栓療法、糖尿病などの動脈硬化性疾患や心疾患への幅広い知識、さらには脳神経外科の治療やリハビリ

リテーションに関する深い知見が求められます。これらを包括的に実践し、次世代を担う人材の育成にも力を注いでまいります。

今後とも、皆さまのご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

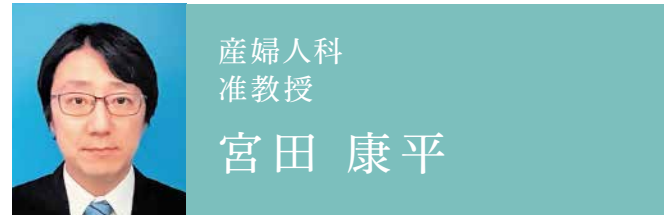


放射線科
准教授

金子 恒一郎

令和7年4月1日付で放射線医学教室の准教授を拝命いたしました。私は平成9年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)を卒業し、九州大学臨床放射線科に入局、福岡県内を中心に放射線科医として研鑽を積んでまいりました。令和3年4月より4年間東京女子医科大学画像診断・核医学科に赴任し、この度福岡に戻ってまいりました。核医学診断、核医学治療を専門としており、腫瘍、炎症、脳神経、循環器領域における核医学診療、教育、研究に幅広く携わってきました。核医学と言えばPET検査を連想される方が多いと思いますが、近年世界的に発展が目覚ましく、更なる発展が期待されるのが放射性同位元素を使用した放射性リガンド療法です。現在福岡大学病院では甲状腺癌、甲状腺機能亢進症、前立腺癌骨転移に対する放射性リガンド療法が行われていますが、今後は神経内分泌腫瘍に対するペプチド受容体放射性核種療法、前立腺癌に対するPSMA治療を導入、発展させていく所存です。放射性リガンド療法を行うには医師、放射線技師以外の多職種、多部署

の強力な連携が必要不可欠であり、今後皆様にいろいろ相談させて頂くことも多いかと思います。ご指導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



産婦人科
准教授

宮田 康平

令和7年4月より四元房典教授のご推挙により、福岡大学病院産婦人科の准教授の役を拝命いたしました宮田康平と申します。同じ肩書で寄稿することになりましたのは、令和6年度に鹿児島大学大学院医歯学総合研究科婦人科がん先端医療学講座に特任准教授の職を得て、1年間鹿児島大学病院で婦人科腫瘍手術とロボット支援下手術の修練をさせていただきました。鹿児島大学病院産婦人科では国内有数の婦人科領域の高難易度手術全てを提供し、da Vinci Xiを2台、hinotoriを1台有し、積極的にロボット支援下手術悪性腫瘍手術を行っております。日本有数のハイボリュームセンターでの経験を生かして、診療での寄与と後進の育成に邁進して参ります。また、AIを用いた産婦人科疾患の診断研究を法政大学と共同で進めており、分娩時の胎児心拍陣痛図による胎児機能不全、不妊症・不育症患者の子宮鏡による慢性子宮内膜炎、画像検査による完全手術困難な卵巣がんの予測・診断補助装置の開発を行ってきました。当講座の特色の一つとなりつつあるAI研究についても牽引していく所存です。

福岡大学医学会第92回例会および第48回総会

■日時/令和7年9月24日(水) 17:30 ~ 19:15 ■場所/医学部講義棟 3F RI 大講堂

1. 第92回福岡大学医学会例会 【進行】集会幹事 濱崎 慎

1) 開会の辞 集会幹事 濱崎 慎

2) 会長挨拶 医学部長 小玉 正太

3) 第27回福岡大学医学会賞受賞論文講演 (講演10分、質疑応答含む)

① 講演者…新居見 俊和(小児科/再生・移植医学) 座長…小玉 正太

「Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells」

② 講演者…森永 絵理(再生・移植医学) 座長…小玉 正太

「Effectiveness Evaluation of Microneedling Therapy for Diabetic Ulcer: An Animal Model Study」

③ 講演者…丸田 弦(細胞生物学) 座長…石倉 周平

「RAD52-mediated repair of DNA double-stranded breaks at inactive centromeres leads to subsequent apoptotic cell death」

④ 講演者…甲斐田 大貴(筑紫病院・外科) 座長…長谷川 傑

「Clinical significance of intraductal papillary mucinous neoplasms incidentally detected in patients with extrapancreatic gastrointestinal malignancies with a focus on pancreatic cancer development」

4) 第27回福岡大学医学会賞金賞論文投票

5) 新任教授講演 (講演25分、質疑5分)

講演者…四元 房典(産科婦人科学) 座長…小玉 正太

「次世代へつなぐ産婦人科医療」

2. 第48回福岡大学医学会総会

1) 議 事

【進行】庶務幹事 北島 研

① 報告事項 ② 令和6年度会計報告および令和7年度予算案 ③ その他

2) 第27回福岡大学医学会賞授賞式

【進行】集会幹事 濱崎 慎

① 開票結果発表 ② 授賞式

3) 閉会の辞 集会幹事 濱崎 慎



講演された先生方と

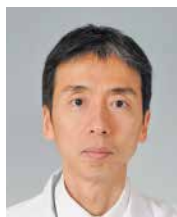
(左から、新居見先生、甲斐田先生、小玉会長、森永先生、丸田先生、四元先生、石倉先生)



看護学科
准教授

一期崎 直美

令和7年4月より、福岡大学医学部看護学科准教授を拝命いたしました一期崎直美と申します。私は、看護学科発達看護分野学校保健領域および教職課程を担当し、養護教諭養成に携わっております。略歴としましては、福岡大学附属看護専門学校で看護を学んだ後、養護教諭一種免許状の資格を取得し、養護教諭として小学校と中学校で勤務いたしました。この在職期間中に熊本大学で教育学修士と養護教諭専修免許状を取得いたしました。その後、西南女学院大学で看護学科教員として十数年働いた後、この度、福岡大学で勤務させていただくことになりました。主な研究としては、養護教諭におけるケア、専門職としての養護教諭について研究しております。私の名字は、一期一会と同じ「いちご(ざき)」と読みます。このことばのように、保健室で出会う子どもに対して、一度限りになるかもしれないという思いを持って子どもに関わることができる養護教諭を養成していく所存です。福岡大学に微力ながら貢献できるよう研鑽していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



微生物・免疫学
講師

坂本 篤彦

このたび、廣松賢治教授のご推挙により、福岡大学医学部微生物・免疫学講座の講師を拝命いたしました。私は1999年に九州大学医学部を卒業後、同大学胸部疾患研究施設(現呼吸器内科)に入局し、九州大学病院での研修を経て、市中急性期病院の呼吸器内科およびケアミックス病院の総合診療科で診療に従事し

てまいりました。

2019年より福岡大学に移り、東洋医学診療部、その後は総合診療科で診療を行う傍ら、微生物・免疫学講座と共同でSARS-CoV-2 mRNAワクチンに対する液性免疫応答の研究を進めました。この研究を通じて同講座とのご縁をいただき、また鍋島茂樹教授の勧めもあり、本年度より微生物・免疫学講座に異動いたしました。これまでの臨床・研究の経験も活かし、微生物学・免疫学の教育・研究に取り組んでまいります。

微力ながら福岡大学のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



皮膚科学
講師

佐藤 絵美

令和7年4月1日付で今福信一教授のご推挙により、福岡大学医学部皮膚科学講座の講師を拝命いたしました。私は平成19年に本学医学部を卒業後、初期研修を経て平成21年に皮膚科学教室へ入局し、皮膚免疫に関心を持ち平成22年に大学院へ進学しました。微生物・免疫学講座の廣松賢治教授の下で抗菌ペプチド・カセリサイディンと自然免疫応答を研究し、その縁で平成25年から米国UCSDのRichard L. Gallo教授の研究室に留学し、三次元表皮構築技術を習得しました。平成29年に帰国後は微生物・免疫学講座で助教として基礎研究を継続させていただきました。令和元年に皮膚科学講座助教、令和2年より4条7号講師として臨床・研究・教育に従事し、昨年研究成果により第7回Janssen Psoriasis Award基礎部門金賞を受賞しました。現在はアトピー性皮膚炎など炎症性皮膚疾患を中心に診療し、分子標的薬の最適化を目指して今福教授と全エクソーム解析や西日本レジストリー研究を進めています。さらに後進の教育や指導に力を注ぎ、福岡大学医学部の発展に貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

学位取得 次の方は、福岡大学より博士(医学)を授与されました。

課程修了による学位取得者 [令和7年3月24日付け]

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------|
| ・森永 絵理 (生体制御系) | ・戸倉 晋 (病態機能系) | ・田中 益美 (先端医療科学系) |
| ・池内 伸光 (生体制御系) | ・中塩 舞衣子 (病態機能系) | ・新居見 俊和 (先端医療科学系) |
| ・柿本 麻子 (病態構造系) | ・原 純也 (病態機能系) | ・丸尾 宇史 (先端医療科学系) |
| ・古賀 隆之 (病態構造系) | ・廣田 高志 (病態機能系) | ・安心院 勇佑 (先端医療科学系) |
| ・西田 明弘 (病態構造系) | ・増田 将人 (社会医学系) | ・稲田 悠希 (先端医療科学系) |
| ・小林 駿介 (病態機能系) | ・浅田 遼 (社会医学系) | ・木村 涼平 (先端医療科学系) |
| ・佐々木 颯太 (病態機能系) | ・河野 和美 (社会医学系) | ・塩飽 晃生 (先端医療科学系) |
| ・真田 京一 (病態機能系) | ・牧 香里 (社会医学系) | ・三浦 江里香 (先端医療科学系) |

論文提出による学位取得者 [令和7年3月24日付け]

- | | | |
|----------------|---------------|-----------------|
| ・海老 規之 (生体制御系) | ・池田 文 (病態構造系) | ・下川 亜沙美 (病態構造系) |
| ・岡部 雄 (病態構造系) | | |



微生物・免疫学
講師

吉村 芳修

この度、廣松賢治教授のご推挙により、令和7年4月より福岡大学医学部微生物・免疫学講座の講師を拝命いたしました。

私は平成20年に福岡大学医学部を卒業後、国立病院機構長崎医療センターで初期研修を行い、平成22年に福岡大学医学部腫瘍血液感染症内科学教室に入局いたしました。平成23年より、大学院へ進学し、その間、田村和夫教授のご推薦をいただき、交換留学制度を用いて、九州大学大学院医学系学府細菌学分野の吉田眞一教授のもとで細菌学の基礎を学びました。学位取得後はさらに研究に従事したいという思いから、平成28年より5年間、大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所免疫部門で研究員として、主に炎症や感染症に起因する流早産についての研究を行いました。

そして、令和2年4月より福岡大学医学部微生物免疫学講座で勤務する機会をいただきました。着任当初は、まさにコロナ禍真っただ中でありました。前任施設でSARS-CoV-2のPCR検査の経験があったこともあり、福大病院での検査体制の立ち上げにも参加させていただきました。

現在は、主に感染症に伴う脂質代謝性疾患の研究を軸に、臨床分離菌株のゲノム解析やレプトスピラ症の研究などを行っています。今後とも、研究、教育を通じて福岡大学の発展に尽力してまいります。引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

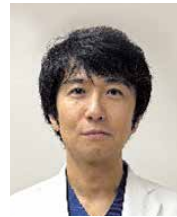


整形外科
講師

石松 哲郎

この度、山本卓明教授のご推挙により、2025年4月1日付で福岡大学病院整形外科講師を拝命いたしました。私は、2009年に福岡大学医学部を卒業し、2011年より同整形外科教室に入局いたしました。関連病院での研修をへて、2014年より同大学院へ進学し、内藤正俊名誉教授並びに山本卓明教授のご指導のもと、学位を取得いたしました。2018年よりドイツのBG Trauma center Tübingenへ学外留学の機会を頂き、2020年より福岡大学病院整形外科助教に着任し、膝関節と足の外科の診療を担当しております。診療内容としては、変形性膝関節症に対するロボット支援下での人工関節置換術や、様々な種類の膝周囲骨切り術、スポーツ選手への靱帯再建術や、足部・足関節疾患に対する関節鏡を用いた低侵襲手術を行っています。臨床研究では、「患者さんに還元できる研究」を目指し、診療発展に努めてまいりました。

これまでの経験を活かし、今後も臨床・研究・教育に注力し、福岡大学病院の発展にわずかでも貢献できますよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



総合周産期母子医療センター
講師

瀬戸上 貴資

この度、永光信一郎教授のご推挙を賜り、福岡大学病院総合周産期母子医療センターの講師を拝命いたしました。私は平成15年に福岡大学を卒業し、同年福岡大学医学部小児科学教室に入局いたしました。福岡大学病院および関連病院で小児科の基礎を学び、小児科専門医取得後は特に新生児医療を中心に研鑽を積んでまいりました。平成23年度からは当院の周産期センターに勤務し、新生児医療に従事しております。福岡市でも出生数は減少傾向にありますが、近隣産科クリニックからは当センターへ多くのご紹介をいただいております。早産・低出生体重児や正期産の病的新生児の胎外での発育管理・内科的治療に加え、小児外科をはじめ、外科系の各診療科の協力のもと、外科疾患の周術期管理を行っています。また、新生児病棟を退院した医療的なケアを要する児のフォローアップや支援体制の構築に向けた取り組みを行っています。

微力ではありますが、医療の発展にわずかでも貢献できるよう精進いたします。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



循環器内科
講師

平田 哲夫

浦伸一郎主任教授のご推挙により令和7年4月1日付けで、福岡大学病院循環器内科講師を拝命致しました。私は平成17年に産業医科大学を卒業、聖隷浜松病院にて2年間の臨床研修を行い、その後に聖隷浜松病院循環器内科、聖隷健康診断センターにて勤務致しました。平成27年より岐阜ハートセンターにて各種心血管インターベンション治療の修練を受けました。ご縁を頂き令和4年に福岡大学医学部心臓・血管内科学講座に入局いたしました。一般循環器内科診療と並行して、肺高血圧症の診断・治療に取り組んでおります。当院では大学病院ならではの他科連携を強みに、呼吸器内科、呼吸器外科、腎臓・膠原病内科、リハビリテーション科などと密に協働し、複雑かつ重症の肺高血圧症例に対して早期診断、早期治療を目指して包括的なチーム医療を実践しております。近年、疾患認知度が向上している慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対しては、カテーテル治療である経皮的バルーン肺動脈形成術(BPA)に積極的に取り組んでいます。今後は地域医療機関との連携強化、臨床研究の推進を通じて、肺高血圧診療の質向上に貢献してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



心臓血管外科
講師

古井 雅人

和田秀一教授のご推挙により、2025年4月より福岡大学病院心臓血管外科講師を拝命致しました。私は2006年に富山大学を卒業後、千葉西総合病院にて初期研修を修了し、その後は徳洲会系列病院で研鑽を積んで参りました。2019年にはマレーシア国立心臓病センターへ臨床留学し、日本と異なる手術方式を経験することで視野を広げて参りました。

大動脈手術の深化と研究活動の両立を志し、2022年4月に福岡大学病院心臓血管外科に入局しました。大動脈手術のエキスパートである和田教授のご指導のもと、複雑かつ稀な疾患への対処や高度な技術も学び、大動脈解離に関する研究で学位を取得させて頂きました。

大学病院は教育・研究・臨床の3本柱を担う場と言われます。私は学生教育として虚血性心疾患の講義を担当するとともに、冠動脈バイパス手術コンテストでの経験を活かし、若手外科医の技術指導に努めております。研究面では当院の豊富な症例を基に大動脈解離や大動脈瘤の特徴や危険因子を纏め発表して参りました。臨床面では低侵襲心臓手術にも注力し、弁膜症権威である白十字病院心臓弁膜症センター江石先生のご指導を仰ぎながら、弁膜症治療に従事するとともに、2023年より低侵襲冠動脈バイパス手術を開始・担当しております。

今後は福岡大学病院および地域医療の発展に貢献できるよう一層精進して参る所存です。何卒温かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。



循環器内科
講師

出石 礼仁

2025年4月より循環器内科の講師に昇格させて頂きました出石礼仁と申します。私は福岡市早良区で生まれ育ち、弘学館中学・高校、大分大学を卒業し、福岡徳洲会病院での初期研修を経て、2017年に心臓・血管内科学講座に入局しました。大学講義で不整脈に興味を持ったこと、初期研修で救急医療、診断学的重要性を学んだこと、地元福岡に帰りたいという気持ちが入局の理由でした。それから大学病院や国立循環器病研究センター不整脈科での修練を経て、2022年4月より再度福岡大学で働かせて頂いております。現在はポリクリ講義や6年生の集中講義を担当させて頂くようになり、自分には荷が重く感じておりますが、私が循環器内科に進むきっかけとなったような立派な講義ができるよう努力したいと思っております。また、不整脈診療においては近年リードスペースメーカーや刺激伝導系ペーシング、パルスフィールドアブレーションといった新たな治療が行われるようになっておりますが、時代の流れやニーズに沿った治療を提供しつつ、質の高い診療を行えるよう研鑽を積んで参りますので今後ともよろしくお願い致します。



皮膚科
講師

鶴田 紀子

令和7年4月1日付で、福岡大学病院皮膚科講師を拝命いたしました。

私は平成17年に佐賀大学医学部を卒業後、同大学医学部内科学皮膚科に入局し、主に佐賀大学附属病院にて皮膚科全般の診療に従事してまいりました。平成31年4月より、乾癬の疫学研究の第一人者である今福信一教授のもとで研鑽を積みたいたいという思いから、福岡大学医学部皮膚科学教室に籍を置かせていただいております。

令和3年4月からの4年間は、北九州市立八幡病院皮膚科主任部長として勤務し、このたび講師として大学に復帰する運びとなりました。

専門は乾癬であり、福岡大学を主幹として西日本の34施設が参加する乾癬レジストリを立ち上げ、合併症や予後に関する疫学研究を進めております。乾癬はメタボリック症候群や関節炎を高率に合併するため、内科・整形外科の先生方には日頃より多大なご協力をいただいております。また、統計解析においては、衛生・公衆衛生学の有馬久富教授にご指導を賜っております。

今後は皮膚科学を通じて、大学および地域医療に貢献できるよう、より一層努力してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



看護学科
講師

鯨島 由紀子

令和7年4月より福岡大学医学部看護学科臨床看護分野成人看護学の講師を拝命致しました。私は北里大学看護学部を卒業後、同大学病院ICU/CCUにて勤務し、重症患者に対する全身管理や急変時対応、家族支援などに取り組む中で、生命の危機的状況にある患者の尊厳を尊重する看護を実践してきました。その経験から終末期医療や家族看護に関心を持ち、約10年にわたり日本臓器移植ネットワークにて、ドナー移植コーディネーターとしての業務に従事しました。その後、福岡大学大学院にて看護学修士を取得し、令和3年より本学に着任致しました。現在は、成人看護学、家族看護論、先端医療と看護を担当しております。研究では、クリティカルケア領域における代理意思決定支援に加え、看護基礎教育における臓器移植医療についても、教育内容の充実を図るための研究を進めております。これらの経験を活かし、専門性と人間性を兼ね備えた看護職者の育成に努めるとともに、福岡大学のさらなる発展に寄与してまいりたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

教室だより
Letter from a classroom



総合診療学

総合診療科は、2005年4月に大学病院外来における急性疾患や原因不明疾患を担う部門として新設されました。当初は外来診療のみでしたが、2009年には入院診療を開始し、現在は本館10階西病棟に12床を有しています。医局員も開設当時は2名のみでしたが、2025年現在22名の医局員が大学内外に在籍するまでに至りました。また2013年から二次救急を開始し、2014年からは急患診療部（現・救急治療センター）を立ち上げ、総合診療科が主体となり大学における二次救急診療に従事してきました。2024年には総合診療部から総合診療科へ改称し、2025年度には総合診療科から救急治療センターが独立しましたが、同センターには当科からの医師を常時派遣し、連携を強化しています。

当科の特徴は、多岐にわたる疾患の横断的な初期診療を行っております。また、体がだるいなど専門科が特定できない紹介の患者さん、どの科を受診していいかわからない紹介状を持たない患者さん、職員、学生の急な体調不良や、救急外来での初期対応など幅広い業務を担っており、患者さんの状態に応じて臨機応変に対応するゲートキーパー的な役割を担うことで患者満足度の向上や診療の効率化にも寄与しています。教育面では、医学部の3～5年次の臨床講義、とりわけ4年次の症候・病態学演習では参加型形式で実施し、学生の主体的学びを重視しています。5・6年次のクリニカルクラークシップⅡ・Ⅲでは、外来・病棟診療やカンファレンスへの参加を通じて初期診療を実体験できる仕

組み作りを行っています。さらに初期研修教育では、令和6年度に12名の初期研修医を受け入れ、実践力の身につく、外来・病棟・救急で幅広い研修を行っています。

研究活動において当科は東洋医学診療も行っており、その中で感染症と漢方に焦点をおいて研究を行っております。これまでにインフルエンザには麻黄湯が有効であることを臨床研究で証明し、基礎実験にてそのメカニズムを解明してきました。現在RSV感染症やマダニ感染による重症熱性血小板減少症候群を引き起こすSFTSVにも着目し、日々研究を行っています。今後も教育的役割を一層強化し、初期診療から二次救急診療、さらには訪問診療や予防医学の分野まで幅広く対応できる人材の育成を目指しています。医局は若手医師を中心に活気があり、未来を担う人材が積極的に学び、挑戦しています。これからも総合診療科をどうぞよろしくお願いいたします。



祝 第27回福岡大学医学会賞



丸田 弦
(細胞生物学・大学院)

RAD52-mediated repair of DNA double-stranded breaks at inactive centromeres leads to subsequent apoptotic cell death
Nucleic Acids Res. 2024 Nov 27;52(21):12961-12975.



新居見 俊和
(小児科/再生・移植医学)

Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells
Scientific Reports. 2024;14(1): 18804



森永 絵理
(再生・移植医学)

Effectiveness Evaluation of Microneedling Therapy for Diabetic Ulcer: An Animal Model Study
Plastic & Reconstructive Surgery-Global Open 2024 Sep. 12(9):p e6200



甲斐田 大貴
(筑紫病院・外科)

Clinical significance of intraductal papillary mucinous neoplasms incidentally detected in patients with extrapancreatic gastrointestinal malignancies with a focus on pancreatic cancer development
Surgery. 2025 Feb;178:108903. (Accepted 29 September 2024)

教室だより
Letter from a classroom



生命医療倫理学

本学における生命医療倫理への取り組みの一環として、2015年に医学系研究・生命医療倫理部門が新設されました。当初は研究倫理への対応を中心に活動をスタートしましたが、実際に取り組みを重ねるなかで、倫理は研究にとどまらず、教育や臨床まで、医療のあらゆる場面に深く関わることが明らかになりました。チーム医療や多職種協働、そして責任ある研究実践は、いずれも倫理を基盤とする営みです。高齢化社会や心不全パンデミック、新興感染症といった現代的課題に対しても、倫理的な視点が重要です。そのため、生命医療倫理が学問として、また実践として不可欠な存在であることが共有されるようになりました。

そのような流れを受け、2023年4月には「生命医療倫理学講座」として新たに出発し、体制を強化して今日に至ります。講座の使命は、研究・教育・医療にわたる幅広い領域で倫理的課題に取り組み、大学全体の発展と社会的信頼の確立に貢献することにあります。とりわけ研究支援の面では、臨床研究支援センターや本学に新設された学術研究倫理等支援機構と連携し、研究者が安心して臨床研究に取り組めるよう体制を整備しています。倫理審査の申請書作成や審査対応に際しては、教員・スタッフが一丸となり、迅速かつ丁寧なサポートを心がけています。その根底には、「少しでも研究がやりやすい環境を整えたい」という思いがあります。

教育面では、倫理的な思考力と判断力を育成することを重視しています。AIや先端医療の発展に伴い、研究や医療はますます複雑化・専門化しています。そのなかで必要とされるのは、多様な人や場をつなぐ力、誠実さや共感、多面的な思考と

いった普遍的な倫理的態度です。医療は、患者・家族・医療者の協働によって成り立ちます。その中で倫理的感性を持ち、相手の立場を理解しながら最善の行動を選び取る能力は欠かせません。私たちは、医学、哲学や倫理学といった学問を基盤に、実際の研究現場や臨床に即した教育の展開を目指しています。

さらに、社会との連携も重要な柱です。倫理は病院や大学の枠を超え、地域医療、産学連携、政策決定など多方面に影響を及ぼします。病院理念である「あたたかい医療」の実践と、より良い社会の実現に向けて、積極的に取り組んでいます。

このように本講座は、研究環境を支える基盤的役割、医療者を育てる教育的役割、そして社会的課題に応える実践的役割を担うことを目指し、これからも真摯に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



長い間ありがとうございました

- 岩崎 昭憲 教授 (総合医学研究センター)
- 松永 彰 教授 (総合医学研究センター)
- 内尾 英一 教授 (眼科学)
- 浦田 秀則 教授 (筑紫病院臨床医学研究センター)
- 東 登志夫 教授 (筑紫病院脳神経外科)
- 山下 眞一 教授 (筑紫病院呼吸器・乳腺外科)
- 小柳 康子 教授 (看護学科)
- 木村 裕美 教授 (看護学科)
- 釈迦堂 敏 准教授 (消化器内科学)
- 東 大二郎 准教授 (筑紫病院外科)
- 吉田 康浩 准教授 (筑紫病院呼吸器・乳腺外科)
- 倉員 正光 講師 (産婦人科)
- 瀬尾 哉 講師 (整形外科科学)

令和7年3月1日～令和7年9月30日までに退職された方

- 高田 耕平 講師 (臨床検査・輸血部)
- 中山 鎮秀 講師 (整形外科)
- 井上 寛子 講師 (西新病院循環器(心臓血管・リズムセンター))
- 河野 靖 講師 (西新病院総合・健診)
- 以上、3月31日付け
- 庄司 文裕 准教授 (呼吸器・乳腺・小児外科)
- 久富 智朗 准教授 (筑紫病院眼科)
- 以上、7月31日付け
- 吉松 軍平 准教授 (再生医療センター)
- 松永 大樹 講師 (整形外科)
- 小野陽一郎 講師 (筑紫病院消化器内科)
- 以上、9月30日付け